



## 答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 3 詔勅	第2次伊藤博文内閣のもとで開かれた第4回帝国議会において、政府と民党は予算案をめぐる激しく対立した。これに対し、政府は天皇から「和衷協同」を求める詔勅（建艦詔勅）を出させることで、民党側の妥協を引き出し、予算を成立させた。
問2	答え 3 下関条約	日清戦争の勝利に伴い、1895年に日本と清の間で締結された。この条約によって日本は遼東半島（のちに三国干渉で返還）、台湾、澎湖諸島を割譲された。新たに領有した台湾ではマラリアなどの風土病が猛威を振るっており、日本政府は現地での植民地支配を安定的に進めるため、衛生対策や感染症研究を急速に整備する必要に迫られた。
問3	答え 4 ロシア	19世紀末、シベリア鉄道の起工など東アジアへの南下政策を本格化させるロシアに対し、イギリスは強い警戒感を抱いていた。イギリスは東アジアにおける勢力均衡を維持するため、近代化を達成しつつあった日本との関係を強化する必要性を認識し、条約改正交渉において妥協的な姿勢へと転じた。
問4	答え 3 高輪築堤	明治初期に建設された鉄道遺産である高輪築堤は、西洋の近代技術を導入しつつも、石垣の基礎に丸太や松の杭（胴木）を用いるなど、江戸時代以来の伝統的な埋立てや石垣造りの在来技術を応用して築かれた。これにより、当時の日本の近代化が在来技術を活かしながら進められたことが示されている。
問5	答え 3 デ・レーケ	明治政府は、日本の急峻な地形と大雨による洪水被害に対応するため、オランダから技術者を招聘した。彼は河川の下流部における改修だけでなく、水源地である山林の砂防工事や植林の重要性を説き、日本の治水事業に多大な貢献を残した。
問6	答え 3 福沢諭吉	『学問のすすめ』や『西洋事情』の著者として知られる人物は福沢諭吉である。彼は『福翁自伝』の中で、少年時代に神社の祠を開けて神体を路傍の石とすり替え、それでも祟りが無いことを確認したというエピソードを紹介しており、非合理的な迷信を排する徹底した合理主義的・科学的な精神を早くから持っていたことを示している。同じく明六社に参加した中村正直などと区別することが重要である。
問7	答え 4 前島密	前島密は「日本郵便 of the year」とも称される近代郵便制度の創設者であり、1870年に郵便制度の創設を建議した。翌1871年には東京・京都・大阪間で官営の郵便業務が開始され、その後全国へと拡大された。これにより、従来の飛脚に代わる安価で確実な近代通信網が確立された。
問8	答え 4 横浜港	日米修好通商条約などの安政の五カ国条約に基づき、1859年に神奈川（実際には対岸の横浜）が実質的な開港場として開かれた。この港は幕末の貿易において最大の取引額を占め、輸出では生糸や茶、輸入では綿織物や毛織物が中心となった。特に1863年から1865年にかけては、これら綿織物や毛織物の輸入額が一貫して増加し、国内市場に大きな影響を与えた。
問9	答え 1 埴保己一	江戸時代後期の国学者である彼は、幕府の援助を得て和学講談所を設立し、古典籍の収集・保存に努め、一大叢書である『群書類従』を編纂した。この事業は、近代における日本の古典研究や歴史研究に多大な影響を与えた。
問10	答え 4 鮎	西洋の油絵技法を学んだ高橋由一は、それまでの伝統的な日本画の画題にとらわれず、身近な日常の事物をリアルに描写することに挑戦した。吊るされた塩鮎の質感や陰影を克明に表現したこの作品は、日本の近代美術史上、きわめて重要な洋画作品として位置づけられている。